

長野県大学職場一般吹奏楽連盟吹奏楽コンクール実施・審査規定

改定 (平成 8 年 4 月 19 日)
(平成 12 年 4 月 23 日)
(平成 14 年 6 月 23 日)
(平成 22 年 5 月 27 日)
(平成 23 年 5 月 28 日)
(令和 3 年 10 月 24 日)
最終改定 (令和 5 年 10 月 15 日)

[1] 総則

1. この規定は長野県吹奏楽連盟が主催する長野県吹奏楽コンクール（以下、「コンクール県大会」という。）の部門のうち長野県大学職場一般吹奏楽連盟（以下、「当連盟」という。）が主管する「大学の部」及び「職場・一般の部」（以下、2つの部門を総括して「本部門」という。）の実施及び審査に関して必要な事項を定めたものである。
2. コンクール県大会本部門は当連盟の正会員の団体が応募して参加し、毎年7月ないし8月に実施する。
3. 実施会場及び日時は当連盟理事会（以下、「理事会」という。）がこれを定める。

[2] 実施部門及び人員

1. 実施部門を次のとおりとし、参加団体は所属する部門に出場するものとする。
 - ① 大学の部
 - ② 職場・一般の部
2. 各部門の参加人員は次のとおりとする。なお、指揮者はこの人員には含まれない。
 - ① 大学の部 55名以内
 - ② 職場・一般の部 65名以内
3. 上部大会（東海吹奏楽コンクール、全日本吹奏楽コンクール）ではコンクール県大会の参加人員を超えて演奏することはできない。

[3] 参加資格

1. 各部門における演奏者の参加資格要件は次のとおりとする。
 - ① 大学の部
同一の大学又は高等専門学校に在籍している学生とする。
なお、高等専門学校においては学校教育法第119条により置かれた専攻科の学生、大学においては学校教育法第91条により置かれた大学の専攻科及び別科の学生及び同法第92条により置かれた大学院の学生を含むものとする。
ただし、管楽器、打楽器、コントラバスを専攻する学生の参加は認めない。
 - ② 職場・一般の部
当該団体の構成員とする。ただし、職業演奏家の参加は認めない。
2. 同一奏者が全日本吹奏楽コンクールの予選に出場する二つ以上の団体に重複して出場することは認めない。
3. 指揮者の資格は特に制限しない。

[4] 演奏

1. 課題曲・自由曲は同一人員で演奏し、かつ同一のメンバーが演奏しなければならない。ただし楽器の持ち換えは認める。
2. 課題曲・自由曲とも同一人が指揮すること。
3. 参加申込書の記載事項を変更しての演奏は認めない。
4. 参加団体は課題曲および自由曲を演奏して審査を受けるものとする。
5. 課題曲について次のとおりとする。
 - ① その年度ごとに全日本吹奏楽連盟で指定する課題曲の中から1曲を選んで演奏するものとする。

- ② 課題曲はスコアに指定された編成を尊重すること。
- ③ スコアに指定された楽器が無い場合はスコアに指定されている楽器に限り代替演奏を認める。
- 6. 自由曲について次のとおりとする。
 - ① 組曲も1曲とみなす。
 - ② 自由曲の編成は、木管楽器、金管楽器、打楽器（擬音楽器を含む）とする。ただし、コントラバス、ピアノ、チェレスタ、ハーブの使用は認める。
 - ③ その年度ごとに指定されている課題曲を自由曲として演奏することはできない。
 - ④ 著作権の存在する楽曲を編曲して自由曲とする場合は、事前に著作権者から編曲の許諾を受けなければならない。この許諾を受けないで大会に参加することは認めない。

（注） 1. 作曲者の死後およそ70年を経ている大半の作品には著作権が存在する。ただし、平成30年の著作権法改正以前に保護期間を終えているものは遡及されることはない。

2. 編曲の管理は日本音楽著作権協会ではなく著作権者（作曲者またはその楽譜の出版社）が行っている。
- 7. 演奏時間について次のとおりとする。
 - ① 演奏時間は課題曲と自由曲を含めて12分以内とする。
 - ② 演奏時間とは課題曲の演奏開始から自由曲の演奏終了までをいう。
 - ③ 規定の演奏時間を超過した場合は失格とし、審査の対象としない。
- 8. 出演順について次のとおりとする。
 - ① 部門演奏順序及び出演順序は理事会が決定する。
 - ② 出演順決定後はやむを得ないものと認められる場合を除き出演順を変更しない。
- 9. ステージへの機材持ち込みについて次のとおりとする。
 - ① ステージにハーブやコントラバス等の台・反響板を持ち込むことはできない。
 - ② サイレントベース（コントラバスにマイクをつけたもの）、オルガン、ハーブシコード、アコーディオン、電子楽器を使用することはできない。

[5] 審査

- 1. 審査の実施及び審査員の選出は次のとおりとする。
 - ① 審査は審査員5名からなる審査委員会が行う。
 - ② 審査員は音楽に関する専門家、有識者の中から選出し、当連盟理事長（以下、「理事長」という。）が委嘱する。
 - ③ 審査委員会の互選により審査委員長を選出し、審査委員長が審査委員会を統括する。
- 2. 審査員は次の観点により審査を行う。

A 音と音質	音色、音のコントロール、音のブレンド
B イントネーション	音程、フレージング
C テクニック	アインザッツ、リズム、発音、正確さ、個々の技術
D バランス	主旋律、対旋律、伴奏、ハーモニー、音量
E 楽曲解釈	テンポ、ダイナミックス、感銘度、きめの細かさ、奏者の理解度
- 3. 審査の評価は次のとおりとする。
 - ① 審査は「課題曲」及び「自由曲」についての段階評価によるものとし、各審査員が「課題曲」と「自由曲」について各々1～10の10段階で評価を行う。
 - ② 審査員は[5]2.に規定する審査の観点を踏まえて各団体の演奏について独自の基準で評価するものとし、その結果を審査カードに記入する。併せて各団体の審査講評を審査カードに記述する。
- 4. 審査結果の処理は理事長が指名した者が行う。
- 5. 審査員が評価した「課題曲」及び「自由曲」の段階評価は、審査員1名につき20点、審査委員会として100点を上限とする「評定点」として集計し、団体ごとに以下の基準により「金賞」、「銀賞」、「銅賞」の賞を付与する。

金賞	80点以上
銀賞	50点以上79点以下
銅賞	49点以下
- 6. [5]5.の規定により付与した賞は審査委員会の上承により決定し、理事長が授与する。

7. [4] 7. ③の規定により失格となった団体には努力賞を授与する。

[6] 規定違反に対する処分

1. 出場団体に [3] 1.、[3] 2. 又は [4] 3. の規定に違反する事実が認められた場合は、当該団体について参加停止とする。また、後日これらが明らかになった場合は審査結果を無効とするとともに、失格として授与した賞を剥奪する。
2. 団体の演奏に [4] 1.、[4] 2.、[4] 5.、[4] 6. 又は [4] 9. の規定に違反する事実が認められた場合は失格として審査の対象としない。また、後日これらが明らかになった場合は審査結果を無効とするとともに、失格として授与した賞を剥奪する。

[7] 東海吹奏楽コンクール出場団体の推薦

1. 上部大会の東海吹奏楽コンクールへ出場する団体の推薦は以下のとおりとする。
 - ① 各部門とも東海吹奏楽連盟の示す出場団体規定数の範囲内で金賞受賞団体の「評定点」の上位より選出し、審査委員会の信任を得て推薦団体として決定し、理事長が出場権を授与する。
 - ② 前①項による選出において金賞受賞団体数が東海吹奏楽連盟の示す出場団体規定数に満たない場合は、東海吹奏楽連盟の示す出場団体規定数から前①項により選出した団体数を差し引いた団体数を銀賞受賞団体の「評定点」の上位より選出し、審査委員会の信任を得て推薦団体として決定し、理事長が出場権を授与する。
 - ③ 前①項及び前②項による選出において選出団体数が東海吹奏楽連盟の示す規定数を超えた場合は、最下位で選出された団体について審査委員会が投票を行って過半数の推薦票を獲得した団体を推薦団体として決定し、理事長が出場権を授与する。

[8] 表彰

1. 表彰は授与する賞の公表及び賞状の授与によって行う。
2. 各団体に授与する賞、並びに東海吹奏楽コンクールの出場権を授与した団体は表彰式で発表する。
3. 審査カードは各団体への引き渡しにより公表し、各団体が得た「評定点」及び受賞した「賞」、並びに東海吹奏楽コンクールの出場権を授与した団体は表彰式終了後に掲示等により公開する。なお、審査員氏名は公表する。

[9] その他

1. コンクール県大会本部門の参加に要する費用は参加団体の負担とする。
2. コンクール県大会本部門の運営方法は理事会が定める。
3. コンクール県大会本部門開催当日に不測の事態が生じた場合の対応は次のとおりとする。
 - ① 審査及び表彰に関する不測の事態
理事長又は理事長が指名した者が審査委員会の意見を聴取して対応をとりまとめ、その指示に従うものとする。なお、理事長に事故ある場合は副理事長がその任務を代行する。
 - ② 運営に関する不測の事態
理事長又は理事長が指名した者が対応をとりまとめ、その指示に従うものとする。なお、理事長に事故ある場合は副理事長がその任務を代行する。
4. この規定に定められていないコンクール県大会本部門実施上の細目については理事会がその都度定める。